

在宅医療・介護関係者の相談に応じます

医療と介護の相互理解や職種間の意思疎通が困難な場合など、多職種多機関が抱える課題に対して、より良い方向で検討できるようサポートします。

小さなことから
どうぞご利用
ください

何でも聞ける関係を目指して！ - 多職種が集まりました -

I 医師等多職種懇談会 7月5日 於:UOSHIN

6つのテーマについて105名の参加者が15グループに分かれて話し合いました。

テーマ1	医師とつながろう！	・連絡票で照会したことに回答がほしいです ・直接話ができる絶好のチャンス
テーマ2	歯科医師とつながろう！	・歯科医から施設職員に伝えたい、入所者のお口の状態
テーマ3	薬剤師とつながろう！	・薬剤師もフィードバックがほしい ・胃ろうの人、お薬の形状は適切ですか？ ・多剤併用、悩んでいませんか？
テーマ4	嚥下困難になった人・家族の意思決定を支えるためにできること	
テーマ5	通所介護事業所での診療補助行為指示書について考えよう	
テーマ6	入退院支援連携について考えよう	



(主治医への)「連絡票」

伝えたいことを簡潔に記載しましょう。
「SBAR」を参考にしましょう。

SBAR

Situation - Background - Assessment - Recommendation

- S** 状況 ~何が起きているのか~
例) 119番ですか？目の前で、人が倒れました。
- B** 背景/経過 ~状況の理解に必要な情報は~
例) 呼びかけても返事がありませんでした。
- A** 判断/考え ~あなたはどのように考えているのか~
例) 心停止と考えると、心臓マッサージをしています。
- R** 提案/依頼 ~相手にどうしてほしいのか~
例) すぐに来てください。場所は〇〇駅です。

※ Rは"Request"でも可

救急車を呼ぶ場面でSBARを使ってみましょう！



報告:魚沼薬剤師会 魚沼支部長 茂市管理薬剤師

II 多職種連携検討会 於:ボラセン

第1回「高齢者の薬の飲み方の現状を知る」 10月23日 76名参加

ポリファーマシー(多剤併用)について、調剤薬局と病院薬剤師からの報告とグループワーキング

第2回「新米ねっとを活用した取組みについて知る」 12月4日 79名参加

とても難しい問題なので、繰り返しテーマにあげてほしい。

参加者が多いということは、米ねっとへの期待値が高いと思う。



報告:小出病院 田中薬剤師



(株)アルム佐野さん

(株)アルム岩崎さん



中島先生

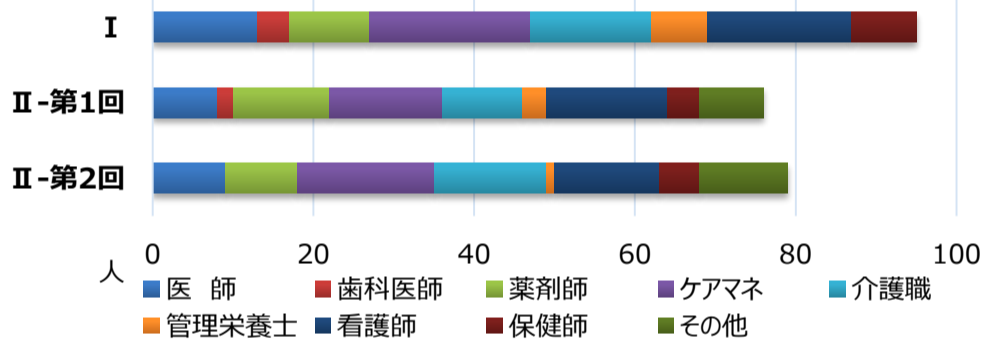
美雪園訪問看護 小宮山看護師

うおぬまケアセンター 渡部ケアマネ



在宅医療推進センターより
集合写真を撮ってみたいでーす。

職種別の参加者数



ワーキングチームの皆さん 大活躍



- ・JA訪問介護 星管理者
- ・在介小出 齊藤管理者
- ・中島脳外科内科医院 中島先生
- ・小出病院連携室 佐藤科長



写真
左から

- ・前島ふれあいセンター 武藤管理者
- ・あぶるま苑 桜井生活相談員
- ・ヴィラ上町 佐藤管理者



- ・美雪園訪問看護 小宮山管理者
- ・市地域包括 岡部主任保健師
- ・南部地域包括 鈴木管理者
- ・健康福祉部 高野課長代理

❁懇談会・検討会のファシリテーター(進行役)をお願いしました。

❁現状と課題の共有、解決に向けて検討しています。

人材不足は看護師に限りません。介護職が定着しない、高齢化も課題です！

いわゆる身寄りなし問題について、魚沼市内でルールづくりはできないか。

「うおぬま・米ねっと」が、連携のための強力なツールとなるとよい。

主治医に連絡が必要な時は、迷わず実行！その時、必ず職種を伝えてください。

効果的な情報共有のために！

❁(主治医への)「連絡票」

医師に、利用者に関する連絡や相談を行う時に使用しています。今後多少の修正を行う予定ですが、しばらくは現在の書式を使用してください。

❁情報共有ノート

利用するサービスの記録を利用者ごとに一冊に集約し、家族やサービス提供者が、経過を一目で確認できるファイルを作成中です。完成間近です。

❁入退院支援連携ガイド

小出病院の入退院に際し、主に病院とケアマネの役割を記載したものです。関係者の協力と連携を進め、市民が安心して在宅で療養できる地域を目指します。

